

V 卒業および後援会、同窓会

工学部、大学院、短期大学部、同専攻科では正式の呼称は異なるが、ここでは卒業という言葉を用いる。以下に、卒業と卒業後の進路、後援会、同窓会について述べる。

1. 卒業

卒業および卒業後の進路の状況を資料5.4に示す。この表から、入学者の履修状況の概略、すなわち留年学生および退学者の割合などを見ることができる。

資料5.5は退学者数と退学の理由を示す。学生が退学を申し出た場合には、学生部長が本人や本人の父兄または保証人と面談し、事情をよく聞き助言を与える。退学の理由は、就職、進路変更、他大学進学などである。就職は、標準修了年限を過ぎた学生が、経済的理由や工学への興味を失ったことなどから就職を目指すケースが多い。進路変更は、他の大学を受験し直したい、あるいは専門学校等へ進学したいという者が多く、他大学進学のために退学する場合は入学後2年以内が多い。また、勉学意欲の喪失が退学につながることもある。何とはなしに入学し、勉学の意志がないままに授業に欠席がちとなったり、アルバイトに熱中し勉学への関心を失ったりする場合もかなり多い。生活のためのアルバイトというより、むしろ自動車の購入などレジャーにあてるためのアルバイトのし過ぎが多く見受けられる。授業についていけないという場合もあるが、本人が熱心に勉学すれば、たいていの場合1年程度の留年で卒業できる。なお、単位取得が不十分な学生には、その科目の担当教員が随時注意を促すことがあり、また年度末、場合によっては年度途中で教務課が書面によって注意を喚起している。

学部生の卒業後の進路については、進学が約4割、就職が約6割である。就職希望者の就職率は例年ほぼ100%を達成しており、「就職に強い大学」として評価を受けている。また、進学者については、ほとんどは本学大学院に進学している。一方、短期大学部では、ほとんどの年で進学（本学専攻科への進学や4年制大学への編入学）が就職を上回っている。

2. 後援会

富山県立大学後援会は、全学を対象にしている、①学生の福利厚生に関する事業、②学生の就職開拓に関する事業、③学生の国際交流に関する事業、④学生会行事、サークル活動に対する後援を行っている。

会員は、正会員として、大学に在籍する学生の父兄又は保証人、特別会員として、本会の趣旨に賛同する者からなる。会費は、工学部が50,000円、大学院工学研究科が10,000円、短期大学部が30,000円、同専攻科が10,000円となっている。

2002年度から学生の教育環境向上のための福利設備・備品等、キャンパスライフを一層充実させるため、キャンパスライフ充実特別会計が設置された。

3. 同窓会

富山県立大学には、1992年に短期大学部の最初の卒業生を送り出して以来、工学部と短期大学部の2つの同窓会が併存していた。これは、短期大学部卒業生は、短期大学部の前身である富山県立大谷技術短期大学と富山県立技術短期大学の同窓会である千瓢会への入会を可としたが、2年後に工学部の最初の卒業生が出る段階で、工学部は千瓢会とは別に富山県立大工学部同窓会を独自に立ち上げることとしたことによるものである。

しかしながら、学生たちが卒業し、とりわけ県内企業に勤めると、同じ県立大学卒業生ということで両同窓生が集まることもあり、またある企業では、社内で合同の同窓会組織が活動をするケースも生まれた。当時、工学部の同窓会には活動を支えていた人が、県外に転勤したり、県外就職者が多かったり、さらに多忙な世代ゆえに、じっくりと同窓会活動に取り組めないという問題を抱えていたし、一方の千瓢会は、学科数が減ったことにより新規の会員数が減少し、千瓢会としての将来展望に一抹の不安が残るといった課題を抱えていた。大学としても、同じキャンパスに学んだ学生が異なる同窓会に所属することは、卒業生にとっても大学の発展にとっても好ましいことではないと常々考えていたこともあり、学長の指示のもとに事務局長と学生部長が、2003年の春に千瓢会と工学部同窓会の両会長に働きかけを行い、3者の思惑が一致したことから、合併に前向きに取り組むことになった。

その後両同窓会では合併に向けての協議が重ねられ、2005年11月13日ホテルアクア黒部（黒部市天神新）で千瓢会（富山県立大谷技術短期大学・富山県立技術短期大学・富山県立大学短期大学部の同窓会）と富山県立大学工学部同窓会の総会が開かれ、それぞれの総会で千瓢会と富山県立大学工学部同窓会の合併が承認された。引き続き同会場で、富山県立大学同窓会の設立総会が開かれ、会長に千瓢会の荒木甫氏、副会長に工学部同窓会の高田満氏が選ばれた。

なお、富山県立大学同窓会の新しい機関誌として、千瓢会が発行していた「千瓢会だより」（1992年創刊、最終14号）と工学部同窓会が発行していた「飛翔」（1993年創刊、最終12号）を統合し、当時の双方のスタッフの手により機関誌「千瓢」を発行している。



同窓会機関誌『千瓢』創刊号
(2006年10月1日発行)

表5.3 後援会と同窓会の会長

年度	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
後援会	井上良誠	後谷 彰	浅井國夫			笹谷一治	高波浩二		三加 進	
同工学部同窓会	黒坂健二		高田 満			県立大学同窓会 荒木 甫				
同短大部同窓会(千瓢会)	荒木 甫									